



# おもすの森

発行  
大本山 本門寺根源  
山務庁  
富士宮市北山4965  
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御 聖 訓

『孟蘭盆御書』

(弘安三年七月一三日)

目連尊者と申す人は  
法華經と申す經にて正  
直捨方便とて、小乗の  
二百五十戒立ちどころ  
になげすて、南無妙法  
蓮華經と申せしかば、  
やがて仏になりて名号  
をば多摩羅跋梅檀香仏  
と申す。この時こそ父  
母も仏になり給へ。ゆ  
えに法華經に云く  
「我が願既に満ち衆  
の望もまた足りぬ」  
云云。目連が色心は父  
母の遺体なり。目連が  
色心仏になりしかば父  
母の身もまた仏になり  
ぬ。

【現代語訳】

目連尊者という人は、  
法華經というお経で「正  
直に方便を捨てよ」とあ  
るごとく、小乗の二百五  
十戒をたちどころに捨  
て、「南無妙法蓮華經」  
と唱えたので、仏に成り  
多摩羅跋梅檀香仏と名  
のつたのである。この時  
に初めて目連の父母も仏  
に成られたのである。ゆ  
えに法華經には、「我が  
願もすでに満たされ、衆  
人の望みもまたかなえら  
れた」とある。目連の肉  
体と精神は、父母が遺し  
てくれたものである。し  
たがって目連の肉体と精  
神が仏に成ったのなら  
ば、父母の身もまた同時  
に仏に成るのである。

※参考・・・『日蓮聖人全集』

夏休み  
1泊2日

おもす  
太鼓

おもす  
カレー

五心

手品

屋台

第3回  
**おもす道場**  
お寺で楽しく心を養う

8/17(土)～8/18(日)

まだ間に合います!  
是非お友達も誘って  
ご参加下さい!

# 御大事御本尊会

七月二十四日(土用の丑の日)に、年中行事である御大事御本尊会が営まれました。

御静養中の貫首猊下御名代として、鈴木春雄執事長御親修の下、年に一度の開帳となる靈驗あらたかな御大事御本尊が奉奠されました。

当日は、司判・由緒家・大世話人・重須婦人会・檀信徒の方々に御参拝頂き、お経が転読される中、執事長と佐野布教伝



御大事御本尊会の様子



挨拶する執事長

道部長が御大事御本尊を頂戴し、参列者はその「御大事様」の下をくぐり抜け、疫病退散の御利益を賜ると同時に、お楳被いで身体健全・無病息災を祈りました。

法要後、執事長から御大事御本尊のいわれ(下段に記載)と御法話を賜りました。

「昔は村々を御大事御本尊様を掲げ、お題目をお唱えしながら、疫病退散の行脚を致しましたが現在は当山へお集り頂き、この様な形でお勤め致しております。さて、皆様には沢山の汗を流しながら、一心にお題目をお唱えして頂きました。汗をかいた後に水を飲めば身体が潤いま

す。それと同じように南無妙法蓮華經という尊いお題目は、日々疲れて乾いてしまった心に潤いを与えて下さいます。

本日、年に一度の御大事御本尊を奉奠し、疫病退散・暑氣払いのご利益を頂戴出来た事に感謝し、皆様の無病息災をお祈り申し上げ挨拶と致します。」

## 『御大事御本尊の縁起』

日蓮大聖人は文永十一年二月十四日、佐渡流罪から赦免。三月十三日、配所の一谷(いちのさわ)を出発。洪手(しぶて)から真浦(まうら)へと二泊され、十五日に真浦の津よりご発船。越後の柏崎(かしわざき)に御着岸されました。

三月十八日、越後 御道筋の陀羅尼(だらに)村にさしかかるや、白髪の老翁が、大聖人の御前に現れ、「貴僧のおいでをお待ちしていました。このところ疫病が流行して諸人悉く難渋し

ていますので、何卒病魔退散のご祈祷とご所持のお守りを申し受け賜りたい」と願い出られましたので大聖人は懐中よりお守りの御本尊を取り出し御祈願されるや疫病は見る見るうちに退散したと伝えられています。

後年、大聖人はこの御本尊を日興上人へご授与せられ、日興上人が身延を下山の際、奉持して当山に格護され別称『御大事御本尊』と称し尊い信仰を集めております。



※札袋の中に板御守が収められております

尚、このいわれのある大切な『御大事御本尊』をお守りとして作成し、檀信徒の方々に授与しております。御希望の方は当山までお問い合わせ下さい。

法華經に学ぶ 第二十五回

布教伝道部 浦野 弘正

自在天さま・大自在天さま

前回は三光天子さまと四大天王まで紹介しましたので、その続きからです。

さらに天界には「自在天」「大自在天」という世界があると考えられていて、そこにいらつしやる神さまを「自在天子」「大自在天子」といい、三万人の眷属(お付き)と共に会座に座られました。

娑婆世界の主 梵天王さま

次に出てくるのが梵天さまです。インド思想では最高の神さまであり、宇宙創造の神さま「ブラフマン (Brahman)」が神格化された神さまです。お釈迦様が菩提樹の下で悟りを開いた時、すべての衆生に説法を要請したのが、この梵天さまであることは華嚴時のところでご説明しました。帝釈天さまと並んで、護法の善神として最高位の神さまです。併せて「釈梵」と呼ばれるのも先に説明した通りです。

大聖人の解釈

日蓮大聖人は、法華經の守護者として「梵天さま・帝釈さま・四大天王さま」がいらつしやることを、様々な御遺文でご教示下さっています。

化城論品第七では、東西南北と北東・南東・南西・北西(これを四維といいます)に上

と下を合わせた方角(これを「十方」といいます)に、それぞれ五百万億(五百万かける一億)の国(世界)があり、それぞれに梵天王さまがいて、その国土を治めていることが明らかされ、それぞれの長ともいえる大梵天さまのお名前も明かされます。この序品では「尸棄大梵」「光明大梵」という二人の梵天さまが「大梵天王さま」であることを明かさず、一万二千の眷属と共にその座にいらつしやるのが語られています。

八大龍王

続いて登場するのが八大龍王さまです。龍王様もまた仏法を守護する八部衆の一つで、畜生類の代表とされています。龍神さまは、海や川に棲む巨大な蛇の神さまであるといわれています。インドの原住民の間で信仰されていました。この龍を束ねる王様が龍王さまで、様々なお経に、様々に説かれています。法華經では「八大龍王」として八人の龍王さまが法華經の会座に列なり、法華經の守護を誓っています。それぞれのお名前が「難陀龍王」「跋陀龍王」「難陀龍王」「娑伽羅龍王」「和脩吉龍王」「徳叉迦龍王」「阿那婆達多龍王」「摩那斯龍王」「優鉢羅龍王」で、それぞれの龍王様が百千の眷属、つまり、百かける千で十方に及ぶお付きを従えて、法華經の会座にありました。

四人の緊那羅王

緊那羅とはサンスクリット語の「Kimnara

キンナラ」の音写で、帝釈天さまに仕えると言われる神様です。美しい声を持つ、人の姿をした歌と音楽の神様です。人非人に数えられ、ここでは「法緊那羅王」「妙法緊那羅王」「大法緊那羅王」「持法緊那羅王」の四人の緊那羅王さまが百千のお付きを従えてこの座にありました。

それぞれのお名前に「法」が入っている通り、歌と音楽をもって仏法を守護する神さまであることがうかがえます。

四人の乾闥婆王

乾闥婆とはサンスクリット語の「Gandharva ガンダルヴァ」の音写で、もとはバラモン教で信仰されていた神様です。緊那羅衆とともに帝釈天さまに仕えていて、神様方の飲み物である「ソーマ酒」を護る神様とされています。それぞれのお名前が、「楽乾闥婆王」「楽音乾闥婆王」「美乾闥婆王」「美音乾闥婆王」ですから、緊那羅王と同じように音楽を司り、仏法を守護することが分かります。この四人の乾闥婆王さまも百千のお付きを従えてこの座にありました。

四人の阿脩羅王

続いて登場するのが阿脩羅の王さま方です。神さまの中では皆さんにも馴染み深いと思えますが、サンスクリット語の「Asura アスラ」を音写すると阿脩羅で、帝釈天に對していつ果てるともない戦いを挑む戦いの神様としての姿が經典に描かれています。(続く)

『本門要軌』を読む 第二十四回

布教伝道部執事 阿部 和正

前回は助行Ⅱ読誦と正行Ⅱ題目の關係性、方便品と寿量品を読誦する意義について宗祖や先師に問うてまいりました。二品の読誦についてまとめますと左記の様になります。参照（『日蓮宗宗義入門』八二―八四頁）

本門の法華經の二大特性

迹門十四品Ⅱ根幹Ⅱ方便品・枝葉Ⅱ余品

二乗作仏Ⅱ声聞・緣覺の成仏を通して

一切衆生の成仏を明かす。

開三顯一Ⅱ声聞・緣覺・菩薩を開して

一仏乘を説き顯す。

本門十四品Ⅱ根幹Ⅱ寿量品・枝葉Ⅱ余品

久遠実成Ⅱ始成正覺の仏に即して久遠

成道の仏を明かす。

開迹顯本Ⅱ垂迹仏を開して本地仏の实

在を説き顯す。

私達が本山の本堂や各家の仏壇に於いて勤行する際の心得として、我が心を大曼荼羅本尊Ⅱ法華經の靈山虚空會に歸入し、方便品読誦の際は、一仏乘Ⅱ一切衆生の成仏Ⅱ誰しもが仏に成り得る。寿量品読誦の際は、本仏の实在Ⅱ久遠の救済Ⅱ今直ぐにも

仏に成り得るといふ旨を、仏の眞の說法と受け止め、眞の一念三千の救いを実感する事が大切であるかと存じます。殊に『本門要軌』中の「妙法蓮華經方便品第二」（一〇―十三頁）では十如是Ⅱ略開三顯一と呼び「一念三千の出処は略開三の十如実相なれど」（『十章鈔』定本四八九頁）「法華經方便品の略開三顯一の時、仏略して一念三千心中の本懷を宣べ給ふ」（『開目抄』五六九頁）と、十如是に即して諸法の実相、万物の眞実相を示して理象的に一念三千の救いが説かれています。又、「妙法蓮華經如来寿量品第十六」（十四―三六頁）では広開近顯遠と呼び「迹門方便品は一念三千・二乗作仏を説て爾前二種の失一つ脱たり。しかりといえどもいまだ発迹顯本せざれば、まことの一念三千もあらわれず、二乗作仏も定まらず。（略）本門にいたりて始成正覺をやぶれば（略）九界も無始の仏界に具し、仏界も無始の九界に備て、眞の十界互具・百界千如・一念三千なるべし。」（『觀心本尊抄』定本五五二頁）と、迹仏に即して本仏の实在が開き示され、事象的なる一念三千の救いが説かれております。各品の經意の詳細は、本誌『法華經に学ぶ』をご覧ください。

さて方便品の読誦について、當門流に於ては日興上人滅後の翌年、方便品読不読の問答（Ⅱ仙代問答）が行われております。「この問答は日仙が迹門無得道の故に方便品不読の立場をとり、日代は一応得益を許すも、眞の得益は内証の寿量品にあり、高開兩祖の如く、方便品を読むべき立場をとっている。」（参照『日蓮宗事典』六二二頁）と、日滿上人の筆録に拠れば、宗祖の『月水御書』を引用し高祖（日蓮）と開祖（日興）兩師も方便品を読まれたとされ、日興上人御伝草案に拠れば「天目房が方便品不可読立大謗法事。倩案スル二天目一途之邪義専ラ地涌千界之正法二背ク者也」（『宗学全書』二五二頁）等、日興上人も方便品を読誦されていたものと思われ、また、他の宗祖の遺文では「本迹二門二十八品は眞実の經也。所謂二十八品一三文是真佛三身即一法報応の三身也。問ふ一經二十八品也。毎日の勤行我等之堪へざる所也。如何に之を読誦せんや。答ふ二十八品本迹の高下勝劣浅深は教相の所談也。今は此義を用いず。仍て二經の肝心は迹門方便品・本門の寿量品也。」（『授職灌頂口伝鈔』定本八〇〇頁）「方便品の長行書き進じ候。先に進じ候し自我偈に相副て読みたまふべし。」（『曾谷入道御返事』定本九一二頁）「御文に云く、此經を持ち申して後、退転なく十如是・自我偈を読み奉り、題目を唱へ申し候也。」（『松野殿御返事』定本一二六五頁）等、宗祖も方便品の読誦を勧められております。（続く）

三輪是法先生による御講義



七月二十六日(金)、日蓮大聖人第七百五十遠忌・日興上人第七百遠忌慶讃事業の一環として、末寺・興統法縁会・重須会教師向けの教学研修会を開催致しました。

日蓮大聖人入門編の講師として三輪是法先生(立正大学仏教学部教授)に御講義頂きました。

今年度初の第五講は「異説日蓮聖人伝⑤『日蓮深密伝』を読む(最終回)」をテーマに解説頂きました。お盆が始まる忙しい時期ではありましたが、十五名近い教師が受講し、併せてインターネット配信による受講も実施を致しました。

教学研修会 開催



何十年振りかの“本堂回廊磨き”実施!

鈴木執事長並びに鈴木春晴上人により、高圧洗浄機を使つての本堂回廊磨きを数日間にわたり実施し致しました。昭和6年の本堂再建以来、実に90年振りの作業かもしれません。回廊はホコリと汚れとコケで覆われており、水に濡れると黒ずんでいましたが、根気よく進めることで本来の木材の木肌が見えてきました。階段・手すり等も行っています。

お盆・お彼岸 墓参の心得

【はじめに】

八月はお盆、九月は秋のお彼岸とお墓参りする機会も増えてきます。お墓に建てるお塔婆の由来は「ストゥーパ」というお釈迦様のお墓で、インドの言葉で「塔」を意味します。塔を建てて仏様を供養したのが始まりです。仏教が日本に伝来し広がっていく過程で、ご先祖様を供養する「卒塔婆」になり、現在のお塔婆になりました。

お塔婆はかつて施主様が志し、お寺より分け与えられたものでした。しかし近年富士・富士宮市では、墓参りにミニ塔婆をお供えする習慣が定着しつつあります。スーパーなどの量販店で平積み販売されており、安価に購入することができます。そして名前を書いてミニ塔婆をお供えすることで墓参の伝言や名刺代わりとしているようです。



本来の姿はご住職がお経をあげたお塔婆をお墓にお供えするものです。尊いお題目が書かれた塔婆が店頭の間ボール箱に乱雑に置かれているのを見ると大変残念な気持ちになります。菩提寺にてお経をあげたミニ塔婆を既に用意している場合もありますので是非お問い合わせ下さい。

【墓参の心得】

お墓にお供えした枯れた花やその他の供物はお持ち帰り下さい。また、ミニ塔婆は古くなってもゴミではありませぬ。住職が読経をしてお焚き上げ致しますので、菩提寺が指定する場所にお運び下さい。



次に本山墓所に「水道」を設置していますが、時折蛇口がきちんと閉められておらず、水がずっと流れ続けていることがあります。ご自身でなくとも放水に気が付いたら止めて頂けますようお願い致します。

大量のゴミ袋の投棄や水の無駄な流水が今後も続くようでしたら、ゴミの場所や水道の使用を中止せざるを得ない状況でございますので、皆様ご協力をお願い致します。

最後は、お車の駐車のことです。道路の路肩には決して駐車しないようにして下さい。本山墓所は道が狭く、通行の妨げになってしまします。本山の西側に大駐車場もありますし、各塔中の横に駐車場もありますので、それらをご利用下さい。

墓参のマナーに御理解頂き、少しずつでも実践頂くことで、皆様で気持ちよくお参りをして頂けたらと願っております。

第八回清掃奉仕御礼

清掃奉仕参加者御芳名

順不同

「おもすの森」でもご案内致しました、第八回本門寺清掃奉仕は、予定していた七月二十日に実施されました。今回は重須婦人会の皆様との合同清掃が行われ、当山塔中末寺の檀信徒、合計四十名の方々にお集り頂きました。下草刈りにおいては、個人で機械をご持参下さった方もいらつしやいました。感謝申し上げます。

お盆前の境内清掃ということで、本堂前を隅々まで荘厳して頂きました。ご奉仕頂きました皆様には、お忙しい中ご協力頂き、誠にありがとうございます。

今回は、十月の御会式前に清掃作業を予定しております、詳細な日程は確定次第、本紙にてご案内申し上げます。



|       |       |        |        |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|
| 西之坊   | 東陽坊   | 養仙坊    | 本光寺    | 本門寺   |
| 石川 剛浩 | 望月 正見 | 宮島 三男  | 望月 将一郎 | 譽田 成子 |
| 藤田 欣大 | 加藤 貴之 | 志邨 和利  | 佐野 昌彦  | 渡井 将文 |
| 藤田 文代 | 藤卷 泰之 | 石川 元彦  | 松永 省吾  | 松永 省吾 |
| 後藤 幸夫 | 石川 昌之 | 諸星 亜希子 | 小林 國通  | 松永 省吾 |
|       | 富永 政則 | 渡辺 達三  | 渡辺 茂樹  | 松永 省吾 |
|       | 石川 昌之 | 石川 豊   | 渡辺 一雄  | 松永 省吾 |
|       | 石川 昌之 | 渡辺 達三  | 渡辺 茂樹  | 松永 省吾 |
|       | 石川 昌之 | 渡辺 達三  | 渡辺 茂樹  | 松永 省吾 |
|       | 石川 昌之 | 渡辺 達三  | 渡辺 茂樹  | 松永 省吾 |
|       | 石川 昌之 | 渡辺 達三  | 渡辺 茂樹  | 松永 省吾 |



|       |       |
|-------|-------|
| 蓮行坊   | 養運坊   |
| 矢邊 毅  | 藤田 将二 |
| 齋藤 繁美 | 藤田 淳  |
| 渡辺 京子 | 藤田 貴世 |
| 佐野 高子 | 藤田 孝  |
| 赤池 弘旭 | 藤田 孝  |
| 齊藤 美英 | 藤田 孝  |
| 遠藤 英彦 | 藤田 孝  |
| 渡辺 太郎 | 藤田 孝  |
| 野村 純正 | 藤田 孝  |
| 松原 和代 | 藤田 孝  |
| 松原 勝政 | 藤田 孝  |
| 荻 貴世  | 藤田 孝  |
| 藤田 淳  | 藤田 孝  |
| 藤田 貴世 | 藤田 孝  |
| 藤田 孝  | 藤田 孝  |

心から御礼申し上げます

今月までの三光池の工事状況

新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げます。

|             |             |            |             |             |             |             |              |             |            |             |             |             |
|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 蓮華寺 故 遠藤 澄徳 | 蓮華寺 故 伊藤 宥子 | 蓮華寺 故 山田 稔 | 蓮華寺 故 鈴木 まさ | 蓮華寺 故 石川 修平 | 蓮華寺 故 本橋 秀尚 | 蓮華寺 故 吉村 和枝 | 蓮華寺 故 丸山 八千子 | 蓮華寺 故 浅川 鈴江 | 蓮華寺 故 加藤 勤 | 蓮華寺 故 渡辺 勇太 | 蓮華寺 故 土屋 節子 | 蓮華寺 故 久成寺 故 |
|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|

七月末日迄 申込み・申請順  
ご冥福をお祈り申し上げます

本門寺の主な予定

令和六年八月

- 九日 重須婦人会清掃奉仕
- 十三日 八月盆、十六日まで
- 十七日 第三回 おもす道場
- 十八日 第三回 おもす道場
- 二十二日 法縁会理事会(大坊)
- 二十三日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十九日 塔中会議

令和六年九月

- 十三日 重須婦人会清掃奉仕
- 十九、二十五日 秋季お彼岸
- 二十二日 秋季彼岸会法要
- 二十七日 重須婦人会清掃奉仕

丹精者御芳名

香華・その他 供養

市内北山 星谷とみ子 様

諸堂・境内清掃・作業奉仕

本門寺内 重須婦人会 様

本山塔中 寺庭婦人 様

本門寺内 石川由緒家 様

市内北山 望月 正見 様

静岡市 紺文シルク 様

謹んで御礼申し上げます

